

令和7年度 NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 事業報告書

1. 総括

令和7年度は、当協議会設立25周年の節目の年であり、Eボート開発から30周年でもあった。事務局体制を一新したほか、他の団体に委託していたライフジャケットなどのレンタル業務を東京の事務局で担うことにするなど、事務局の作業内容にも変更があった。また、各部会や委員会を再編したほか、令和8年度の役員改選に向けて、代表理事の交代の準備・調整も行った。

事業及び活動に関しては、ここ数年「指導者養成講習会」の回数が減少傾向にあったが、令和7年度は「かわまちづくり登録制度」における川の安全利用に関する人材配置の必要性を国が提示したこともあって、昨年度よりも「指導者養成講習会」や「水辺の安全講座」の受託数を増加させることができた。

一方、昨夏も真夏日、猛暑日が続き、8月の事業実施を避ける傾向が見られ、9月以降に事業が集中したため、日程調整、人員配置に困難が生じる状況が見られた。次年度においても、夏場の暑さ対策は検討課題となると思われる。

Eボートを使った水辺体験事業については、静岡県狩野川、岐阜県の木曾川などで実施した。また、RACは荒川と利根川の河川協力団体に登録していることから、荒川では、東京都板橋区の小学生を対象に学習支援連携プログラムとしてEボート乗船体験を行った。利根川では、千葉県香取市の川の駅をフィールドに、川の安全講習をテーマにしたEボート乗船会を実施した。

資機材のレンタル事業については、管理と発送を取手市で実施していた資機材を、東京のRAC事務局に移動させ、管理と発送を行った。レンタル数は、ほぼ例年どおりであった。販売については、年度当初に仕入れた大人用ライフジャケットは完売したが、子ども用ライフジャケットは225着の販売にとどまった。R8年度に向けては、大人用、子ども用ともに300着を追加発注することとなった。

RAC全国大会は、木曾川をフィールドとして「川と地域の未来を考える」をテーマに、岐阜県美濃加茂市で開催した。RACフォーラムは、Eボートの30年を振り返るとともに、Eボートを活用した各地の取り組みを報告し合い、交流を図った。

令和8年度事業の助成を申請したところ、「水・地域イノベーション財団」と「日本財団」の助成金が確定した。そのための実施体制づくりとしての部会再編を検討した。

2. 会員の入会状況

RACの会員については、令和7年度中の新規加入会員は1団体、退会者は5団体、3個人であり、令和8年3月31日現在の会員数は以下のとおりである。

種別	団 体		個 人	
	R6	R7	R6	R7
会員区分				
正会員	64	62	7	4
一般会員	18	16	0	0
学校会員	9	9	0	0
計	91	87	7	4

3. 総会・理事会

(1) 理事会

令和7年度は、通常理事会において令和6年度の活動報告・会計報告、令和7年度の活動計画・収支予算等について審議の上議決した。そのほか、臨時理事会を1回開催した。

会議名	日時	場所・方法
通常理事会	令和7年5月31日 13:30~14:30	東京・国立オリンピックセンター
臨時理事会	令和8年3月13日 11:00~12:30	オンライン

(2) 総 会

令和6年度の活動報告・会計報告、令和7年度の活動計画、収支予算等について審議の上議決した。

会議名	日時	場所・方法
通常総会	令和7年5月31日 14:30~17:00	東京・国立オリンピックセンター

(3) 常任理事会

会議名	開催日	方法	議題
第1回常任理事会	4月11日	オンライン	ライジャケガイドラインIV決定、部会、委員会設置規定改定案など
第2回常任理事会	5月14日	オンライン	通常理事会、通常総会議案など
第3回常任理事会	7月23日	オンライン	事業の進捗状況、レンタルの見直しなど
第4回常任理事会	9月22日	ハイブリッド	全国大会、新たな助成申請など
第5回常任理事会	12月23日	オンライン	助成申請、RACフォーラムなど
第6回常任理事会	R8年3月5日	オンライン	暫定予算、役員改選など

4. 専門部会・専門委員会

R7年度は専門部会を一部再編するとともに、新たな委員会を設置し、部会・委員会ごとに専門事業を推進した。

(1) 総務部会

- ・企画総務部会を総務部会に名称変更し、主に事務局の支援に特化した業務を担った。
- ・理事会や常任理事会における事務局業務、会計・出納にかかわる事務局業務などの支援及び監督を行った。

(2) 人材育成部会

- ・講座開催の助成がなくなってから各地での少数でのリーダー講座がほぼなくなった。定期的に各地での開催が続かないとリーダー講座の実施経験が続かず、リーダー講習を実施するトレーナーも少なくなる。トレーナーの活動支援をいかにに行い、RACの根幹である指導者養成をいかに全国的に進めるかの課題が残った。

RACリーダー、インストラクター講座

- ・手軽に開催できて参加者の集めやすい日帰りのアシスタントリーダー、アシスタントインストラクター講座を進めてきた。アシスタントからリーダー、インストラクターへの追加講習や事業の込みかえにより、残った講座枠をいかに完了するか広報も進めたがまだ変更も進んでいない。

Eボート指導者講習会

- ・Eボート活用事例を全国大会で集めたり、Eボートの30周年記念イベントにも協力した。ダム湖の湖面開放や水辺の活用が進む中、Eボートの需要はますます高まる。最近の沖縄や知床、保津川などボートの事故が重なり活動団体の背景や資格の取得など、Eボートの指導者資格も今後さらに重要視しなければならない。

シャワークライミングガイド

- ・全国的に河川をボートだけでなく、歩いて楽しむ沢のウォーキングも盛んになっている。シャワークライミングガイド資格はRACの実施している河川での指導に重要な役割にある。全国の講師にさらに講座開催を進めていく。

トレーナー資格更新トレーナーミーティング

- ・トレーナーの資格更新とトレーナーに参加してもらい意見交換も含めて開催できた。RACと各地の会員団体をつなぐ必要な役割がトレーナーである。今年度はトレーナー養成会が実施できなかったのも、ぜひとも来期には開催してほしい。

各種付加資格講座

- ・子どもの水辺安全講座、初めての川遊び教室、水辺の生きもの講習、水辺のリスクマネジメント講座、水辺のレスキュー講習、水辺のファーストエイド講習、レスキューインストラクター講習会など各種の付加資格講座があるが、その再編成する課題を今年度は実現できなかった。来期に期待したい。

(3) 学校連携部会

- ・学校連携部会では、河川での自然体験活動を通じた幼児教育及び学校教育等に対する支援のあり

方について検討を行った。

- ・学校教育で川の体験活動が実施されている事例は全国的には少数である。今年度は保育園及び幼稚園での川の活動を行い、子どもたちの変容について確認を行った。一般の人や子どもたちが川で活動をしたくなるような動画の作成をした。動画に中でポイントをわかりやすくテロップで記載した。5分ほどの動画に、もろもろの情報を埋め込んだ。

(4) 事業部会

- ・組織強化部会から事業部会に名称変更し、主に事業の企画・営業、事業実施に関するマネジメントを担った。
- ・日本財団の海のそなえプロジェクトに引き続き協力してカヌースラロームセンターを活用した水辺の安全講習をライフセービング協会と共に実施した。
- ・これまで RAC が受託している事業については、事務局が窓口から指導者手配など全面的に担ってきた経緯がある。将来的な安定運営のために事業部会としてどのようにかかわっていくのが課題であったが、整えられないままの1年となってしまった。
- ・指導者や団体の偏在などの課題もあり、人材育成部会などとも連携しながら 2026 年度以降整えていきたい。
- ・引き続きこれまで RAC には無かった地域団体などとの活動機会を獲得していきたい。

(5) 専門委員会

1 安全管理委員会

- ・安全管理委員会は、RAC 関係者に重大な事故に遭遇した際の緊急対応を担当する委員会であり、令和7年度の開催はなかった。

2 DX 委員会

- ・サイボウズを導入して、スケジュールや掲示板などが使えるようにし、一部活用を始めている。

3 広報委員会

- ・R7 年度に新設し、HP や SNS の活用した広報活動を推進した。委員長が DX 委員長を兼務していることから、R8 年度に向けて DX 委員会と広報委員会を合わせて「メディア部会」設置の準備を進めた。

4 資機材委員会

- ・レンタル用の E ボート及びライフジャケットの管理・発送業務の委託が終了したため、今年度からは RAC 事務局で管理・発送業務を担った。
- ・RAC 認定川育ライフジャケットの子ども用を 300 着入荷し、200 着以上をクリアウォーターの協力により販売した。

(6) 専門部会・専門委員会の再編の検討

- ・R8 年度に向けて各専門部会・専門委員会の組織再編を検討し、以下の部会長・副部会長・委員長とする案をとした。

	部会長・委員長	副部会長
総務部会	山田 大志	春園 四郎
事業部会	佐藤 繁一	千葉 利光
人材育成・安全部会	田中 清也	塚原 俊也
学校連携部会	菅原 正徳	相馬 孝
メディア部会	田中 謙次	齊藤 新
危機管理委員会	金尾 健司	
資機材委員会	橋本 正法	

5. 川の指導者養成事業

令和7年度の夏も猛暑であったが、今後も水辺のリスクが高まっていくことが想定される。身の守り方を伝えるためには川の指導者数を増やすことが急務である。まずは川の知識を広く認知してもらい、日本全国のRACの団体には川の指導者講習会を開催してもらい、RACの発行する資格の優位性を理解してもらふ必要がある。

(1) RACリーダー養成講座・アシスタントリーダー養成講座の開催

令和7年度、RACリーダー養成講座を全国各地で6講座、アシスタントリーダー養成講座は11講座開催した。

1 千曲川水辺安全講習会運営業務（アシスタントリーダー養成講座）

実施日	令和7年9月18日（木）
フィールド	信濃川・長野県飯山市
主催者・依頼主	千曲川河川事務所
趣旨・内容	千曲川沿川市町村の河川管理担当職員を対象にアシスタントリーダー養成講座を実施した。受講者数は22人であった。 午前中は座学、午後はEボートで千曲川を下りながら、途中でスローロープを使った水難者の救助訓練を行った。雨天だったため、体調面や装備の関係で濡れることに不安があるメンバーは別メニューでの講習を行った。



2 RACリーダー講座

実施日	令和7年7月19日～21日
フィールド	由良川・京都府
事業名・活動名	RACリーダー養成講座 in 美山川
主催者・依頼主	芦生山の家
趣旨・内容	RACリーダー養成講座を実施し、受講者10人が修了した。



3 RAC リーダー講座

実施日	令和7年8月21日、28日、9月4日、11日
フィールド	鶴見川・神奈川県
主催者・依頼主	NPO 法人鶴見川ネットワーク
趣旨・内容	RAC リーダー養成講習会を開催した。受講者は2人。



4 水辺の安全講習会 (RAC アシスタントリーダー講座)

実施日	令和7年5月11日
フィールド	遠賀川、福岡県
主催者・依頼主	北部九州河川利用協会
趣旨・内容	RAC アシスタントリーダー養成講習会を開催した。受講者26人。



5 RAC アシスタントインストラクター講座

実施日	令和8年2月1日
フィールド	緑川・熊本県
主催者・依頼主	ゴーネイチャー
趣旨・内容	RAC アシスタントインストラクター養成講習会を開催した。受講者は1人



6 RAC アシスタントリーダー講座

実施日	令和7年6月29日
フィールド	黒目川・埼玉県朝霞市
主催者・依頼主	どろんこ保育園
趣旨・内容	RAC アシスタントリーダー養成講習会を開催した。受講者は22人。



7 RAC アシスタントリーダー講座 大阪府淀川水系桂川

実施日	令和7年9月28日、10月1日
フィールド	木津川・大阪府／桂川・大阪府
主催者・依頼主	河川財団 近畿事務所
趣旨・内容	RAC アシスタントリーダー講座を実施した。受講者は8人。



8 川の指導者養成支援及び水辺利活用推進（アシスタントリーダー講座）

実施日	令和7年7月4日
フィールド	荒川・埼玉県長瀬町
主催者・依頼主	河川財団
趣旨・内容	アシスタントリーダー講座を実施。11人が修了した。



9 名取川での安全利用に向けた取組① RAC アシスタントリーダー講座

実施日	令和7年9月20日
フィールド	名取川・宮城県
主催者・依頼主	仙台河川国道事務所
趣旨・内容	河川管理者、行政担当者を対象に、アシスタントリーダー講習会を行った。国交省職員9名、仙台市職員2名、計11名が受講した。受講者の一部が、翌日の「川で遊ぼう in 名取川」の補助スタッフとして講義で学んだことを実践に活かした。 ※講座受講者のうち、資格取得をした0人であった。



名取川での安全利用に向けた取組② 川で遊ぼう in 名取川

実施日	令和7年9月21日
フィールド	名取川・宮城県
趣旨・内容	小学生を対象にした河川安全利用体験プログラムを実施し、小学3～6年生15人が参加した。前日の受講者の一部が体験プログラムの運営をサポートした。



10 水難事故防止訓練

実施日	令和7年9月29日
フィールド	長良川・岐阜県
主催者・依頼主	木曾川上流河川事務所
趣旨・内容	水辺の安全講習会、及びEボート乗船体験を実施した。



11 太田川水辺の安全教室

実施日	令和7年8月2日
フィールド	太田川・広島県広島市
主催者・依頼主	建設環境研究所
趣旨・内容	広島のかつ小川小学校の裏のかつ小川で水辺の安全講座を行った。約50名くらいの親子と子どもが参加した。



12 水難事故防止訓練

実施日	令和7年11月19日
フィールド	江合川・宮城県大崎市
主催者・依頼主	北上川下流河川事務所
趣旨・内容	江合川かわまちづくり協議会のメンバーを対象に、アシスタントリーダー養成講座の座学の部分を実施し、15人が参加した。11月という川に入るには適さない時期だったため、実技講習は次年度に実施予定とした。



(2) 各種講座開催及び修了状況

種別 年度	RAC アシスタントリーダー（基礎講座）		RAC 学校リーダー※1		リーダー		インストラクター（I）		コーディネーター（インストラクター II）		トレーナー	
	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数
H13(2001)	(12)	(966)	-	-	5	52	0	0	0	0	0	0
H14(2002)	(3)	(83)	-	-	15	528	5	126	0	0	暫定	24
H15(2003)	(4)	(10)	-	-	24	446	3	52	0	0	1	17
H16(2004)	(1)	(14)	-	-	26	387	3	32	0	0	2	16
H17(2005)	(0)	(0)	-	-	27	266	3	25	0	0	1	14
H18(2006)	(2)	(49)	-	-	27	207	3	22	1	4	1	9
H19(2007)	(6)	(141)	-	-	25	376	0	0	0	0	0	0
H20(2008)	(3)	(38)	-	-	26	319	2	0	0	0	0	0
H21(2009)	(4)	(22)	-	-	33	334	4	48	0	0	0	0
H22(2010)	(1)	(12)	-	-	35	338	2	22	2	6	1	6
H23(2011)	(0)	(0)	-	-	33	287	5	43	0	0	1	4
H24(2012)	(3)	(26)	-	-	26	234	3	12	1	7	1	4
H25(2013)	1	7	-	-	18	168	0	0	0	0	1	1
H26(2014)	2	25	3	25	14	131	0	0	2	10	1	2
H27(2015)	5	85	1	10	16	124	0	0	0	0	1	6
H28(2016)	7	78	0	0	14	127	0	0	0	0	0	0
H29(2017)	13	85	1	13	13	108	1	2	0	0	0	0
H30(2018)	10	56	1	0	13	105	0	0	0	0	1	5
R1(2019)	10	70	0	0	14	86	0	0	0	0	1	5
R2(2020)	6	26	0	0	8	62	0	0	0	0	0	0
R3(2021)	6	33	0	0	7	41	0	0	0	0	0	0
R4(2022)	10	111	0	0	11	69	1	3	0	0	0	0
R5(2023)	7	98	0	0	12	55	1	0	0	0	1	3
R6(2024)	9	79	0	0	11	64	0	0	0	0	0	0
R7(2025)	10	106	0	0	6	47	1	1	0	0	0	0
計	142	2315	6	48	459	4961	38	391	6	27	14	116

(3) 付加資格関連講座・専任講師養成講座の展開

種別 年度	水辺のリスク マネジメント講座		水辺のリスク マネジメント 専任講師養成		水辺のレスキュー 講習		水辺のレスキュー 専任講師養成		Eポート指導者		Eポート指導者 専任講師養成	
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H20(2008)	10	180	4	67	0	0	0	0	0	0	0	0
H21(2009)	6	64	0	0	3	18	5	24	3	36	4	27
H22(2010)	2	28	0	0	3	16	0	0	3	26	0	0
H23(2011)	4	51	0	0	8	77	1	3	6	68	1	3
H24(2012)	3	31	0	0	5	29	0	0	9	90	3	9
H25(2013)	4	42	0	0	5	41	0	0	11	115	2	10
H26(2014)	4	18	0	0	2	27	0	0	8	71	0	0
H27(2015)	2	11	0	0	1	12	0	0	14	84	0	0
H28(2016)	3	21	0	0	1	16	2	0	6	38	0	0
H29(2017)	1	21	0	0	2	31	3	16	5	41	0	0
H30(2018)	2	19	0	0	1	11	0	0	4	23	0	0
R1(2019)	1	6	0	0	3	23	0	0	3	16	0	0
R2(2020)	0	0	0	0	1	11	0	0	1	6	0	0
R3(2021)	4	23	0	0	1	11	0	0	6	37	1	5
R4(2022)	1	9	0	0	2	28	0	0	5	30	1	5
R5(2023)	1	8	0	0	1	13	0	0	3	18	0	0
R6(2024)	2	18	0	0	1	11	0	0	2	21	0	0
R7(2025)	0	0	0	0	1	0	0	0	3	23	0	0
計	50	550	4	67	41	375	11	43	87	714	11	42

種別 年度	水辺のファースト エイド講習		水辺のファースト エイド講習専任 講師養成		RAC 水辺の生き 物講習会		学校連携コーディネーター養成講座					
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	(基礎課程)		(応用課程)		(専修課程)	
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H24(2012)	1	15	1	(11)	0	0	0	0	0	0	0	0
H25(2013)	4	42	0	0	1	3	1	16	1	9	0	0
H26(2014)	3	0	1	0	0	0	3	34	0	0	0	0
H27(2015)	1	20	0	0	0	0	1	10	1	3	0	0
H28(2016)	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	1	3
H29(2017)	0	0	0	0	1	2	1	4	0	0	0	0
H30(2018)	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0
R1(2019)	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0
R2(2020)	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R3(2021)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R4(2022)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R5(2023)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R6(2024)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R7(2025)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	10	85	2	(11)	2	5	9	81	2	※12	1	3

今年度は「Eポート指導者講座」が3講座、「水辺のレスキュー講座」が1講座、開催された。

年度	種別	シャワークライミング 講座
	講座数	修了者
H30 (2018)	-	-
R1 (2019)	-	-
R2 (2020)	1	40
R3 (2021)	3	25
R4 (2022)	0	0
R5 (2023)	7	65
R6 (2024)	1	13
R7 (2025)	0	0
計	11	143

6. 水辺の安全講習事業

令和7年度は各河川事務所等からの下記の通りの受託事業を行った。

1 R7 河川水難事故防止に関する講習会運營業務

実施日	令和7年9月13日、14日
フィールド	信濃川・新潟県新潟市 やすらぎ堤
主催者・依頼主	信濃川下流河川事務所
趣旨・内容	地域住民を対象に、河川水難事故防止に関する講習会、及びEボート乗船体験を行った。参加者は137人。



2 令和7年度狩野川「川の体験活動」支援業務

実施日	令和7年8月2日
フィールド	狩野川・静岡県三島市
主催者・依頼主	沼津河川国道事務所
趣旨・内容	水辺の安全講習とEボート乗船体験を行った。参加者32人。



3 R7 河川水難事故防止訓練に関する講習会運営業務

実施日	令和7年11月3日
フィールド	利根川・千葉県香取市 川の駅さわら
主催者・依頼主	利根川下流河川事務所・関東地域づくり協会（活動助成）
趣旨・内容	地域住民を対象に、水辺の安全講習会、及びEボート乗船体験を行った。



4 楽しく学べる安全教室

実施日	令和7年7月12日
フィールド	高知県高知市工石山青少年の家・大穴峡
主催者・依頼主	高知市教育委員会
趣旨・内容	水辺の安全教室、及びライフジャケット装着川流れを実施した。



5 R7 河川水難事故防止訓練に関する講習会運営業務

実施日	令和7年
フィールド	カヌースラロームセンター・東京都
主催者・依頼主	ライフセービング協会
趣旨・内容	学校の先生を対象に水辺の安全講座を開催した。受講者数は計90人。



7. 川の体験活動事業

1 信濃川水生生物調査

実施日	令和7年9月5日
フィールド	信濃川水系五十嵐川・新潟県三条市
主催者・依頼主	信濃川下流河川事務所
趣旨・内容	大島小学校・水生生物調査をサポートした。参加児童数は18人。



2 学校支援連携プロジェクト

実施日	令和7年11月13日
フィールド	荒川・東京都板橋区
主催者・依頼主	荒川下流河川事務所
趣旨・内容	板橋区立船戸小学校6年生の総合学習の時間で、Eボートを使った水辺の体験、安全学習を行った。参加児童数は約81名。



3 防災Eボート大会運営支援

実施日	令和7年11月7日
フィールド	汐浜運河・東京都江東区
主催者・依頼主	東陽・砂浜運河ルネサンス協議会
趣旨・内容	防災Eボートレース大会の安全管理、パドル操作の指導、及び運営サポートを行った。



4 幼児教育における学習支援プログラム

実施日	令和7年7月～令和8年2月
フィールド	青森県おいらせ町、宮城県仙台市、ほか
主催者・依頼主	河川財団
趣旨・内容	幼稚園やこども園の幼児を対象に、河川での自然体験活動を通じた幼児教育及び学校教育等に対する支援のあり方について検討を行った。



8. 調査研究事業

(1) 河川におけるライフジャケット着用推進検討事業

ライフジャケット着用推進に向けた訴求すべき具体要因を整理した。ユーザー側の意見としてキャンプ場運営者 450 か所を対象にアンケートとヒアリングを実施した。冬季休業中を除く 424 施設のうち 72 施設からアンケートの回答であり、回答率は 17.0%。以下のような意見が出された。

- ・川のそばのキャンプ場であるのにも関わらず、8 割以上のキャンプ場がライフジャケットのレンタルを行っていない。提供していない理由では、「利用ニーズが少ない」と「保管管理が難しい」がもっとも多く、次いで「導入・維持費用がかかる」が多かった。
- ・貸し出しをしている場合、カヌーやボートを体験するキャンプ場では、ライフジャケットの着用を義務付けており、装着までの管理・指導をしているが、自由に川遊びができるキャンプ場では、問合せがあった場合に無料で子供用ライフジャケットを貸し出す場合が多く、説明も簡単に済ませている状況であった。
- ・ライフジャケットを貸し出す時のリスク・不安点は、「サイズ・劣化などの管理」が最も多く、次いで「正しく着用されないこと」、「利用者が過信してしまうこと」の順で多かった。
- ・将来的なライフジャケットの導入に関しては、6 割強が導入を考えていないという結果だった。

(2) 河川での自然体験活動を通じた幼児教育及び学校教育等支援方策検討業務

幼児教育及び学校教育等への支援方策については、昨年度に引き続き青森県、宮城県、福井県の幼稚園で検証を行った。また、今年度は子ども達が川遊びに関心をもってもらうための動画を作成した。川や里山の沢での水辺活動の中で、自然や水生生物について学ぶ様子、子どもたちの気づきをテロップに流し、子どもたちの生き生きした活動を 5 分間の動画にまとめた。



9. 全国大会・RAC フォーラム

(1) 第 24 回川に学ぶ体験活動全国大会 in 木曽川・美濃加茂

実施日	令和 7 年 11 月 1 日、2 日
会場	岐阜県美濃加茂市
主催者	第 24 回川に学ぶ体験活動全国大会実行委員会
テーマ	川と地域の未来を考える

第 24 回川に学ぶ体験活動全国大会は、木曽川をテーマに、岐阜県美濃加茂市で開催した。開会式では、藤井浩人美濃加茂市長、島本和仁国土交通省河川環境課長、辻英之衆議院議員、北川健司実行委員長が挨拶を行った。

基調講演は、「夢と冒険」と題して、モンベル社の辰野勇社長が自身の体験談のほか、アウトドアスポーツを活かした地域資源の活用に関する取り組みを講演した。パネルディスカッションでは、宮尾博一代表理事が進行役を務め、高畑栄治中部地方整備局河川部長、田村祐司東京海洋大学准教授、菅原一成河川財団上席研究員が、「水辺の安全をいかに進めるか」についてディスカッションした。

活動事例発表では、全国の事例から、①北海道・帯広川、②鹿児島・川内川、③福井・九頭竜川、④宮崎・五ヶ瀬川の各取り組みが紹介された。岐阜県内の事例では、⑤美濃加茂市リバ

ーポートパーク、⑥トヨタ白川郷自然学校、⑦笠松町立松枝小学校の E ボート木曽川下り、④大垣公園プレーパーク、の4つの活動が報告された。

また、10月31日午前のエクスカッションは、「太田宿中山道会館の見学会」が開催された。翌11月1日午前の分科会は、①新丸山ダム工事見学、②木曽川ラフティング、③河川環境財団見学、④木曽川 E ボート下りの4つのプログラムで、木曽川を体験した。

歓迎セレモニーとして、オープニングでは美濃乃國御神太鼓の和太鼓演奏、エンディングでは Cheer Tink によるチアダンスが披露され、大会を盛り上げた。

31日の交流会は、美濃加茂市リバーポートパークで開催した。



(2) 第23回 RAC フォーラム：E ボートフォーラム

実施日	令和8年2月14日、15日
会場	東京都江東区 竹中工務店東京本店
テーマ	E ボート30年の功績、そしてミライへ

2月14日（土）、E ボートの30年を振り返るフォーラムを開催した。会場参加者60人のほか、10人がオンライン参加した。

基調講演は「水都東京の復活を目指す活動と E ボートの役割」と題して、陣内秀信氏（法政大学名誉教授）が、川や水路・水辺を利活用した江戸から東京へのまちづくり、都市開発の変遷に関して講演した。その後、報告①では、30年前の「E ボート開発経緯」について、PFR で製造された E ボートからファルトボートタイプへ、そして現在のインフレーターボートへという E ボートの進化について報告された。報告②「E ボートを使った活動の事例発表」では、岩手県一関市・北上川、東京都江東区・汐浜運河、茨城県取手市・小貝川、千葉県浦安市・境川での E ボートを使った水辺活動とその成果が紹介された。

後半のパネルディスカッションでは、国土交通省河川環境課の藤本雄介氏、一関市役所の千田浩一課長、ハーモニイセンターの佐藤ともえ氏、東京海洋大学の田村祐司准教授をパネリストに、中野恒明氏（芝浦工業大学名誉教授）が進行して、「E ボートを使った水辺活動の推進に向けて」と題してディスカッションが行われた。より良い川の活用に関して、かわまちづくりや事故防止の観点などから意見交換が行われた。

最後に、RAC の宮尾博一代表理事が総括して、フォーラムは終了した。



2月15日（日）の午前中、汐浜運河の栈橋を使って、Eボート乗船会を行った。当日はお天気も良く参加者は40名ほどであったが、Eボート2艇で運行した。



10. グッズレンタル・販売事業

(1) レンタル事業

令和7年度については、出足は少し遅かったが、たくさんのレンタルの申込があった。大口のレンタルもあり、この大口については毎年レンタルがありそうである。来年も引き続きライフジャケットのレンタルについては申込が多くありそうである。レンタルの仕組みや昨今の物価高による人件費の値上げなど金額などの改定が必要であると思われる。

(2) 販売事業

ライフジャケットの販売については、年度当初に RAC ブランドを 300 着仕入れ、会員による販売方式も取り入れてライフジャケットの普及を図った。結果として、新製品は 225 着を販売した。今後、ライフジャケットの普及のためにも、販売に力を入れていく。現時点では E ボートの在庫はなし。

【RAC レンタル用機材一覧】

管理委託していたレンタル用の E ボート及びライフジャケットを RAC 事務局で移管した際に、ライフジャケットの確認をし、レンタルに適さない不良品を選別、廃棄した。

現時点のレンタル用機材の所有・保管数は以下の通り。

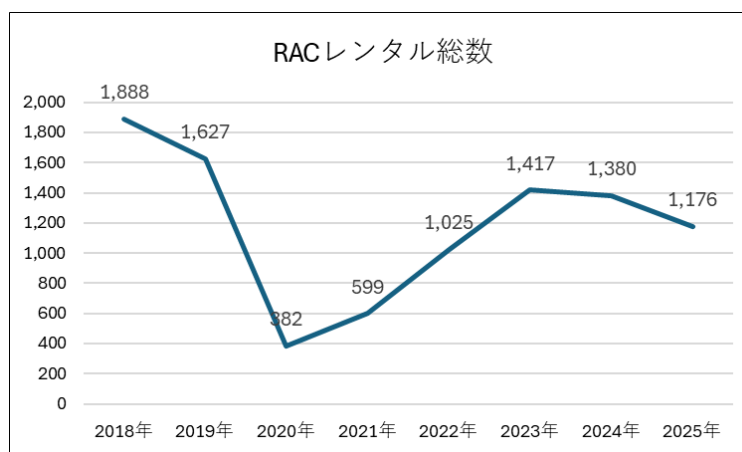
No.	資機材名	数	単位	備考
1	ライフジャケット（幼児用）	51	着	1着分不良、廃棄
2	ライフジャケット（低学年用）	120	着	2着分不良、廃棄
3	ライフジャケット（子ども用）	336	着	156着分不良、廃棄
4	ライフジャケット（大人用）	127	着	83着分不良、廃棄
5	ライフジャケット（プロ用）	14	着	
6	ヘルメット（子ども用）	93	個	2個廃棄
7	ヘルメット（大人用）	153	個	1個廃棄
8	スローロープ（15m）	12	本	1本追加
9	スローロープ（20m）	35	本	
10	Eボート	10	艇	グラブナー社 G タイプ
11	ポンプ	16	個	
12	パドル	140	本	一部スチール
13	ウエットスーツ	71	着	

【R7 レンタル状況】

PFD	ヘルメット	スローバック	E ボート	総計
985	184	3	4	1,176

※自主事業利用含

年度	総数
2018年	1,888
2019年	1,627
2020年	382
2021年	599
2022年	1,025
2023年	1,417
2024年	1,380
2025年	1,176



11. 広報・普及事業

(1) 川育ライフジャケット認定制度の普及

- ・平成 26 年（2014 年）に関係各機関の協力のもと構築した「RAC 川育ライフジャケット認定ガイドライン」に基づいて、令和 6 年 3 月現在、15 種類の製品が認定を受け、水辺シーズンを中心に全国各地の大型スポーツ用品店や、ホームセンター等で提供が継続している。
- ・令和 6 年度は東京都に常設されている「商品等安全対策協議会」が水辺でのライフジャケットの着用推進が検討対象になり R7 年 3 月に報告書が公表された。RAC も特別委員の一人として討議に参画し、RAC マークも他の認定マークと同様に扱われており、これを機会に RAC マークのライフジャケットはもとよりライフジャケットが広く普及することを期待している。
- ・令和 7 年 4 月の常任理事会において、同認定ガイドラインは新規ライフジャケットの認定基準であることを明記すべく内容の一部を改訂し、「RAC 川育ライフジャケット認定ガイドラインⅣ」とした。

(2) 広報活動

- ・メールマガジン「RAC NEWS」は、発行していない。Facebook では、RAC 全国大会、RAC フォーラムについて情報発信を行った。
- ・RAC ホームページについては、必要に応じて更新した。全国大会の報告書を掲載した。